

# 令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

報告日 7年 11月 8日

P T A名		静岡県立沼津聴覚特別支援学校 P T A				
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	24人				

## 1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板（ディスプレイ型）
使用学年及び人数	中学部 4人
使用頻度	毎日 教科ごと
使用状況	<p>英語:ALTとの活動、ホワイトボード機能の使用。イラストと音声データによるリスニングの文字情報の提示。</p> <p>数学:ホワイトボード機能を利用し、例題を教師が提示、それをスクロールして生徒が問題を解き、わからなくなったときにスクロールして例題を見直すといった活動。付属フォルダにある図形を利用。</p> <p>社会:資料の提示、PDFデータへペン機能を活用した書き込み、生徒の発表データの提示、白地図データの活用。インターネットからの動画の視聴。</p> <p>国語:教科書データの提示,ワークシートの提示。</p> <p>家庭科:教科書データの提示、インターネット上での調べ学習の共有。</p> <p>道徳、総合的な学習の時間:共同作業時の画面表示や生徒同士の意見共有。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>聴覚・視覚の重複障害の生徒に対して、資料などの提示した内容を拡大したり、マーカー機能を使用したりすることで見やすくなっている。複数で実施するクイズ形式の問題では、電子黒板にクイズ問題や結果を提示することで生徒の学習への意欲へつながった。</p> <p>前の時間にホワイトボードに記録した板書内容を、生徒が次の時間で見直すといった活用も見られた。さまざまな活用により教師の授業準備の効率化につながっている。</p> <p>また、生徒自身が電子黒板の使い方を覚え、タイマーの使用法や端子の接続方法などで、教師に協力する様子も見られた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>電子黒板の導入により、ICT活用が急速に進み、教師の授業方法が多角的になり、生徒の学習理解も進んでいる。</p> <p>今年度は、生徒が主体的に電子黒板を使って学習したいという姿も見られた。</p> <p>今後も、多くの授業や場面で利用し、ICT教育の向上に努め、わかりやすい授業の展開に務めていきたい。</p>
その他希望や所感など	<p>教師が視覚的支援を実施する大きなツールの1つだと思う。今まで大きな用紙を黒板に貼ったりはがしたり、マーカーを使って書くにも書き直しができなかったが、そうした手間を省いたり効率的な活用につながっていると強く感じた。また、生徒も使い方を覚え、一緒に授業を作り上げていくといった様子も見られ、今後も引き続き活用していきたい。</p>

## 2. 活用の様子



ALTとの授業でスライドを提示した後、ALTの話している単語を書き留めるために使用。データを電子黒板に保存し、次に来た時に前回に行った内容を簡単に取り出して活用した。



自立活動での発表の場面。人権問題について、資料を集めてプレゼンテーションスライドを作成し、生徒が発表しながら資料の説明をした。



数学の授業で角度の問題を分度器で計る授業の様子。USB端子をパソコンとつなぐことでパソコンで操作せずとも、電子黒板の画面上で、指やタッチペンで操作が可能であるため、手話を使って説明しながら、スライドを動かすことができている。